

除草剤耐性ダイズと害虫抵抗性及び除草剤耐性トウモロコシの展示栽培

(栽培実験期間:平成22年度)

確認項目		確認結果
交雑防止措置について	○交雑防止措置について	本栽培実験では、ダイズは隔離距離による交雑防止措置を行っています。研究所内の同種栽培作物までの距離が10m以上である事を確認しました(研究所外の最も近い農家の畑との距離は550m)。トウモロコシは隔離距離によらない交雑防止措置(除雄)を行っていることを確認しました。
	○選定場所について	ダイズの栽培実験において、実験区画の開花期の推定平均風速の算出値が毎秒3mを下回る事を確認しました。台風への対応として8月11～9月2日の間防風ネットを設置したことを確認しました。なお、トウモロコシの栽培実験では本措置は必要ありません。
	○開花前の低温により交雑の可能性が想定される場合の措置について	ダイズの栽培実験において、低温時には栽培区画を不織布で覆って花粉の飛散を防ぐ措置を行う予定だったこと、栽培期間中のほ場の気温がダイズの交雑を引き起こすほどには低下しなかったため措置は行わなかったことを確認しました。なお、トウモロコシの栽培実験では本措置は必要ありません。
	○モニタリング措置について	本実験では必要はありません。
混入・拡散防止措置について	○実験の種子、種苗の分別管理、野鳥等の食害による拡散防止について	ダイズ及びトウモロコシとも種子を密閉容器に入れ、他の種子と区分して保管・管理していることを確認しました。また、野鳥等の食害による拡散防止として播種後一定期間防鳥ネットを、登熟期から栽培終了まで防鳥糸を設置したことを確認しました。
	○栽培実験に用いた機械施設等の洗浄等について	実験区画専用機械の使用はなく、実験区画にて使用した機械等を、実験区画外に搬出の際は払い落とし及び洗浄を行ったことを確認しました。
	○第1種使用規程承認作物の収穫物の管理等について	密閉容器に入れ、ほ場管理室内の鍵付き冷蔵庫にて保管し、実験等の終了後に全て不活化し処分したことを確認しました。
	○栽培実験終了後の第1種使用規程承認作物等の処理等について	トウモロコシは、8月10日及び9月9日に裁断し、ほ場に鋤込み不活化処理を行い、ダイズは完熟前の9月2日に裁断し、9月6日にほ場に鋤込み不活化処理を行ったことを確認しました。
	○第1種使用規程承認作物を栽培した区画での後作の収穫物の取り扱いについて	試食用トウモロコシ及び見学用トウモロコシ・ダイズの栽培実験を行ったほ場には後作としてライ小麦を播種したことを確認しました。これらの後作は、3月11日にほ場内に鋤き込んで不活化を確認しました。
栽培実験に係る情報提供について	○計画書の公表について	計画書が平成22年2月25日に公表された事を確認しました。平成22年5月27日に計画書を一部変更し、その旨を公表したことを確認しました。
	○説明会の開催等について	説明会が平成22年3月18日に開催された事を確認しました。また、本栽培実験についての問い合わせの対応、希望者に対し本実験への見学の受け入れを行った事を確認しました。
	○栽培実験の経過に関する情報提供について	説明会の開催等、本実験の経過について52件の情報がホームページに掲載されている事を確認しました。
	○栽培実験を終了した後の情報提供について	本栽培実験での栽培及び処理の終了について、平成23年1月13日にホームページに掲載されたことを確認しました。
栽培実験に係る管理体制の整備について	○栽培実験に係る管理体制の整備について	栽培実験責任者、作業管理主任者、情報提供主任者を指名して管理体制を整備していることを確認しました。



図1. 除雄後の遺伝子組換えトウモロコシと非遺伝子組換えトウモロコシ(7月8日撮影)



図2. 非遺伝子組換えトウモロコシ(右手前)と遺伝子組換えトウモロコシ(左手前)(7月8日撮影)



図3. 遺伝子組換えダイズ無除草区(7月8日撮影)



図4. 遺伝子組換えトウモロコシ非選択性除草剤使用区(7月8日撮影)



図5. 遺伝子組換えダイズ慣行除草区(7月8日撮影)